

医療と介護をつなぐ 「ビジョンマップ」

年を重ね、病気や介護が必要になっても、できる限り住み慣れた当別町で、自分らしい暮らしを続けたい。そうした思いは、多くの町民のみなさんに共通する願いではないでしょうか。

当別町では、医療や介護に関わる人たちが力を合わせ、町民一人ひとりの暮らしを支えるための話し合いを重ねてきました。その中で生まれたのが、「当別町版 医療介護連携推進・ICT活用ビジョンマップ ver.1.0」です。

今月号では、このビジョンマップに込められた思いや、当別町で進めている医療と介護の連携の取り組みについてご紹介します。

■問合せ 介護課高齢者支援係 (☎ 27 - 5131)

当別町での取り組み

地域包括ケアシステム作り

地域包括ケアシステムとは、国が示している大きな仕組み・考え方で、高齢者の暮らしを住まい・医療・介護・予防・生活支援などの面で切れ目なく一体的に支えることを目指しています。

医療や介護が必要になっても、できる限り住み慣れた地域で、その人らしい生活を続けられるようにするのが目的です。

当別町では、地域包括ケアシステムを作るために、地域ケア会議の開催やビジョンマップの作成に取り組んでいます。

地域ケア会議の開催

地域ケア会議とは、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、地域の方や医療や介護の関係者が集まり、どうすれば、もっとよい支援ができるか知恵を出し合う話し合いの場です。

地域ケア会議は定期的に行われ、顔の見える関係づくりやICTツール「バイタルリンク」活用方法などを検討しています。

この会議の参加者から出てきた意見や思いを基にして、ビジョンマップをアップデートしています。

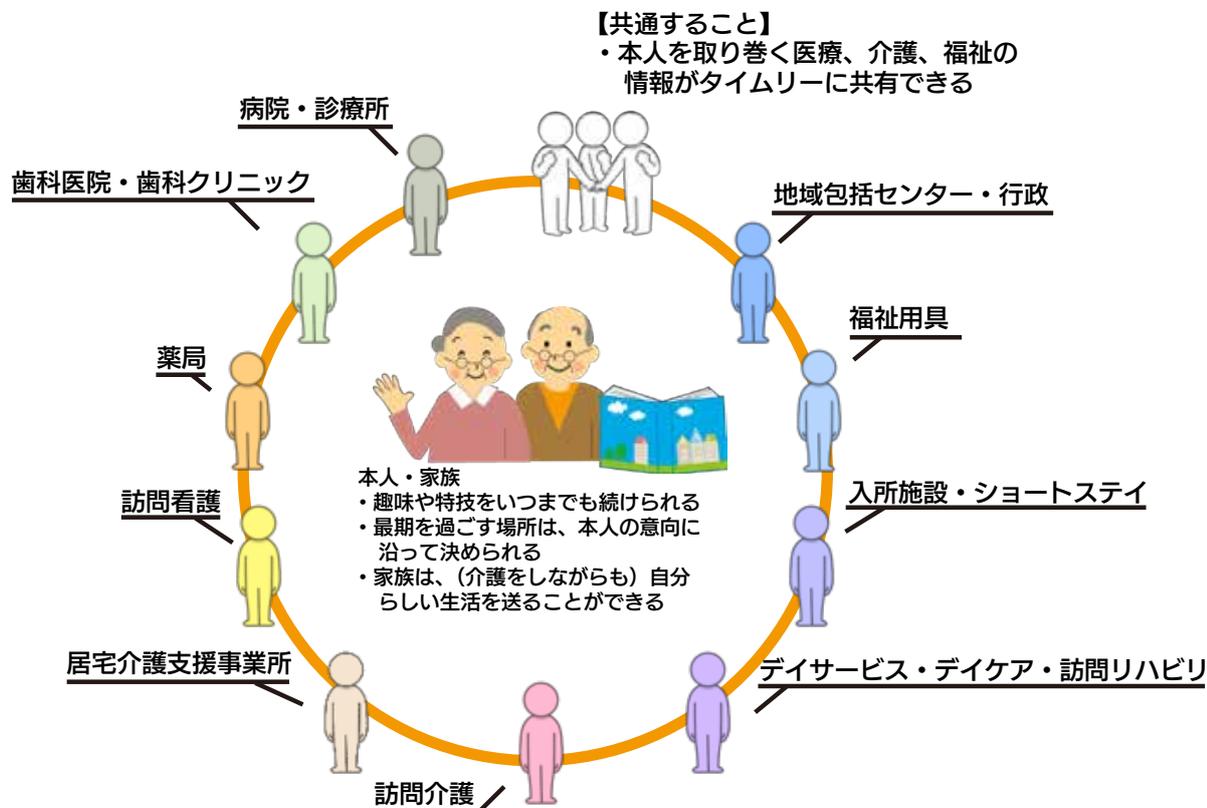
ビジョンマップの作成

ビジョンマップとは、目指している将来像が見える化した図です。

当別町では、医療と介護の連携を強化するための取り組みとして、令和6年4月より関係者全員が必要な情報をリアルタイムで共有できるICTツール「バイタルリンク」を活用した本格運用を開始しました。

このICTツールをより効果的に活用し、町民一人ひとりの願いや希望に沿った支援を進めるために、現場の声をもとに作成したのが「当別町版 医療介護連携推進・ICT活用ビジョンマップ ver.1.0」です。「将来どのような町でありたいか」、「本人・家族にとってより良いサービスとは何か」、「各機関にとってどんなメリットがあるか」を目に見える形で表しています。

当別町版 医療介護連携推進・ICT活用ビジョンマップ ver.1.0

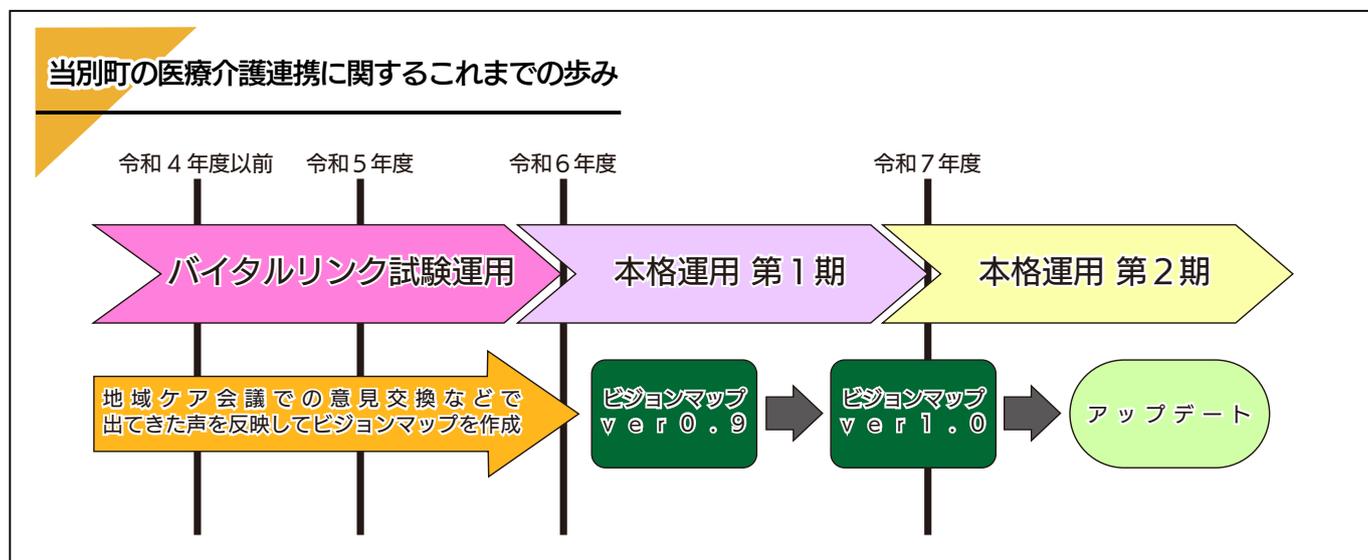


ビジョンマップでは、「十人十色の『物語』を大切に
 する町・とうべつ」を大きな目標に掲げ、町民一人
 ひとりの人生を『物語』と捉え、その人らしい暮らし
 を大切にすることを目指しています。

『物語』にはこれまでの歩みから現在の暮らし、さら
 なる希望、そして人生の最期までを含みます。また、
 『物語』は、個人だけでなく、家族や地域の方々との

関わりや住まい、医療・介護サービスなど、暮らしを
 支える環境も含まれます。

ビジョンマップの中心にいるのは「本人」と「家族」
 です。その周りを、医療・介護・行政などの専門職が
 連携し、力を合わせて支える様子を表しています。住
 民のみなさんの「こう暮らしたい」という思いを大切
 にし、支え合う町を目指しています。



ICTツール「バイタルリンク」

バイタルリンクとは、医療・介護の関係者が、同じ情報をリアルタイムで共有できる「連絡ノートのデジタル版」です。当別町では、連携の方法の一つとして導入しており、令和6年4月から本格運用をしています。

登録が必要な際には、支援者から本人もしくは家族へシステムの説明をし、同意をいただいています。

どんな情報が共有されるの？

バイタル（血圧や体温、体重、血糖値など）データの他、受診や訪問時の様子などをメールのように送り合う連絡帳機能、大切な観察ポイントを専門職全員で共有できる機能などがあります。

高齢者本人の状況に合わせて、共有する情報は関わっている専門職で決めています。

どんなメリットがあるの？

町民の方々へのメリットは、次のことがあります。

- ・ 関わる人達に何度も同じ説明をしなくてよい
- ・ 医療や介護サービスなどが、必要なときにすぐ使いやすくなる
- ・ 関係者間で同じ方針の支援を、より受けやすくなる

バイタルリンク利用開始時の同意のお願い

高齢者本人の名前を登録する際には、ご本人もしくはご家族に同意書へサインをいただきます。積極的な活用へのご理解・ご協力をお願いします。

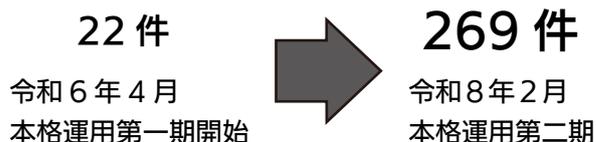
顔の見える地域連携とバイタルリンクの活用

地域ケア会議への参加を通じて、医療スタッフと介護スタッフが顔の見える関係を築くことで、日常の連携がスムーズに行える環境を整えています。この連携を支える仕組みとして「バイタルリンク」が活用されていて、患者さんの日常生活の様子や些細な変化を知ることができる点がメリットです。

外来診療では患者さんの生活背景まで把握することが難しい場合がありますが、バイタルリンクを活用することで治療方針の柔軟な調整や、薬以外の形でのサポートを提供することが可能になります。当院では、看護師が毎日バイタルリンクを確認し、医学的な対応が必要な情報や、生活に関する困りごとを共有しています。たとえば、「転んでしまった」という情報から、薬の処方を見直すきっかけにつながったりと、小さな気づきが大きなトラブルを防ぐ役割を果たしています。

どれくらいの人が使っているの？

利用患者ケース数



医療や介護関係者と人生会議をしましょう

「人生会議」とは、もしものときのために、本人が望む医療やケアについて前もって考え、家族などを含めた支援者で繰り返し共有をすることです。

「〇〇になりたい」「〇〇がしたい」など生活の中で楽しみなことや目標も、医療や介護関係者へ伝えてください。ご本人の気持ちが連携の輪の中心となります。

医療と介護が連携できることでサポートの質が高まるため、可能であれば多くの方にバイタルリンクを活用していただきたいと考えています。



当別あんしんクリニック
長嶋 俊介 院長